

中国人バイオリニスト、劉薇さんによる バイオリン・コンサート

2008年12月16日(火)、大阪YMCA国際専門学校高等課程(国際学科/表現・コミュニケーション学科)主催で、中国人バイオリニスト、劉薇さんとピアノニストの椎野伸一さんによるコンサートを開催しました。生徒中心に約200名の来場がありました。

バイオリンのコンサートは初めてでも楽しみでしたが、当日のコンサートは私に予想以上の感動を与えてくれました。劉薇さんが奏するバイオリンの音色がとても美しく、キラキラと輝いていたように感じました。椎野伸一さんの伴奏とのハーモニーも心地よく本

当に素敵でした。しかし、演奏以上に心に残ったのは劉薇さんが曲の合間に自分の過去のお話をされたことでした。子どもの頃、中国は文化大革命の時期で、バイオリンに触れるどころか、欧米の音楽の勉強をすることさえ困難だったそうです。そんな中、お父さんが楽器



はとても辛く、やめようと思ったこともあったそうですが、それを乗り越えてバイオリンを学び続けられました。様々な経験をされたからこそ、素晴らしい演奏ができるのだらうと思います。

を体に合わせて作り直したり、レコードから楽譜を記譜したりと彼女のために様々な努力をされたそうです。劉薇さんは中国の音楽大学を卒業後、日本の音楽大学に留学されました。一人での留学

から大学へ進学します。きっと壁にぶつかり、やめたいと思う時もあるでしょう。そんな時は劉薇さんの演奏とお話を思い出して頑張りたいと思います。(大倉あゆみ・表現・コミュニケーション学科3年生)

国際リレーエッセイ⑥



～インドネシアより～
山辺 聡子さん

「〇☆△〇☆△」午前4時、近くのイスラム教寺院からコーランが響きます。初めて聞いた朝は、その音の大きさに何ごとかと飛び起きました。今では「今日も始まるなあ」という気分になります。その後、正午、午後3時頃、午後6時頃、夜10時頃と、基本的には通常一日5回の祈りの時間があります。夕方の時は、たとえばドラ



宗教とともにある生活

マの途中でも、どのテレビ局も一斉にコーランと人々が祈るシーンを放映します。街中がイスラム教一色になる瞬間です。また、時節にあわせて行われる特別な行事(断食、割礼、頼母子講、犠牲祭等)や民族衣装、そして豚肉を一切口にしない

ドックを作って販売する機会がありました。担当教員から「豚肉禁止よ」と念を押されました。このように、宗教とともにある生活ですが、12月が近づくと、ショッピングセンターには大きなクリスマスツリーが飾られ、わかサ

ス商戦真っ盛りの街へと変貌しました。数カ月前は、イスラム教徒にとって最も重要な断食月で、イスラム教徒でない私たちはイスラム教徒の人に配慮しなければならぬ生活(断食中の人の前では飲食禁止、仕事に支障があっても断食中の人を怒ってはいけ



ない等々)を強いられるのに、一体どういうことだと、腹立たしく感じました。しかし、クリスマスがイベント的に捉えられていくのだとしても、宗教や国の枠を超えて人々が一緒にクリスマスを楽しみ、少しでも温かい気持ちを共有できるのなら、これもありだなあと思っています。

第5回六甲山氷の祭典に参加 「氷室キャンプ」も実施

—六甲山YMCA—



1月30日(金)〜2月2日(月)の4日間、「第5回六甲山氷の祭典」が開催されました。当事業は阪神・淡路大震災を風化させないため、地域のコミュニケーションの絆と感謝の気持ちを心に刻み、心の安らぎを感じる事ができるよう、市民・地域・行政が一体となつて開催しています。六甲山YMCAも場内のテント設置や備品提供など

で協力し、グルメリコナーでは「チャリティー焼き芋」の販売を行いました。約1万5千名の入場者があり、ボランティア、スタッフが一緒になって声をかけました。これらの売り上げはYMCAクリスマス献金に捧げ、2009年度の地域の児童養護施設の子



どもたちのためのプログラムの費用として活用させていただきます。

また、1月31日(土)〜2月1日(日)に「氷室キャンプ」を実施しました。うりぼうクラブのメンバー6名と地域の外国人の子どもたちが一緒に、YMCA施設内にある、「氷室(氷を入れるための冷蔵庫)」に大きな水塊を入れる作業を行いました。氷室に並べ入れて、熱や風を遮断するために上からおがくずを敷き詰めました。6月の六甲山山開き(グルーム祭)までの間、氷が残っていることを願いながら、みんなで力を合わせて氷室に運びました。(西川勝久・六甲山YMCAスタッフ)

ユースリーダーの日の集い2008

2008年12月23日(月)に「ユースリーダーの日の集い」を開催しました。217名が参加した集いは、1部礼拝、2部集いの形式で行われ、礼拝では、伊勢富士夫牧師(日本基督教団天満教会)より説教をいただき、命について、あらためて考える良い機会となりました。2部の集いでは、ユースリーダーたちが思いのこもった歌をいくつも披露しました。毎年、各プランチからリーダーたちが実行委員として選出され、集いを進行していきますが、本年度は、11のプランチから、自ら名乗りを上げた者や、仲間から推薦を受けた者など21名が引き継いでいけるように、楽譜付きの歌集を自分たちの手で作り、後継のリーダーへ繋げていくことが確認されています。(福山武志・土佐堀YMCA所長)

◆筆者紹介◆
山辺 聡子さん
大阪YMCA元職員。
昨年よりインドネシアに滞在し、現在は大学でインドネシア語を学習中。